

平成 26 年度 入学 試験 問題

小 論 文

注 意 事 項

1. この問題冊子は試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
2. この冊子は全部で 4 ページあります。
3. **I** の全 1 問に解答して下さい。
4. 解答用紙は、その 1, その 2 の二枚を配布してあります。この他に下書用紙も配布してあります。解答用紙には受験番号を記入する欄がありますが、下書用紙にはありません。間違えないようにして下さい。
5. 受験番号は解答用紙の指定された箇所に記入して下さい。決して氏名を書いてはいけません。
6. 試験終了後、解答用紙を回収します。問題冊子と下書用紙は持ち帰って下さい。

I

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。(配点 200 点)

「若い子には旅をさせろ」「苦勞は買ってでもしろ」といった格言を繰り返し聞くことを考えても、経験を積む重要性は一般的に認められている。時に、経験は量で語られ、「10年の海外勤務の経験を活かして」とか「入社2年ですから、まだまだ経験不足です」のように、数値が高い方が良いとされる。

しかし、経験をたくさんしようと思い、いくら長生きしたところで自分が経験できる量はたかが知れており、また、いくら自発的に経験することを望んでも経験不能なことも多い。よって、当人の身を以って経験すること、つまり直接経験に頼るだけでは経験量を増やすことはできない。そうすると、直接的に経験すること以外に経験量を増やすことを考えねばならなくなる。つまり、間接経験である。たとえば、一人の人間が実際に訪問することができる国は限られているが、いろいろな国に行った人から話を聞いたり、旅行記を読んだりすることがそれだ。

では、間接経験は直接経験と同等の価値を持つものだろうか。

間接経験は直接経験に及ばないと感じる人は多いだろう。「百聞は一見にしかず」。ある大学の歴史地理学の授業では、日本史上の有名な合戦についての説明を聞いた後、その合戦場に実際にみんなで行くのだそうだ。そうすると、岩の存在や山の稜線といったものが合戦の勝敗を左右した、ということを感じることができるらしい。

間接経験は直接経験と同等の価値を持つか、という問いに答えられるように、間接経験の一つとしての読書を考えてみよう。直接経験のほうが価値が高いと思う人にとっては、読書は直接経験に代わるものではないということになるであろう。しかし、はたしてそうだろうか。

次に引用するのは、ある種の読書の重要性を説いたものである。(* のついた語には文末に語注がある。)

著作権の関係で引用箇所は出典のみを表示してあります。

著作権の関係で引用箇所は出典のみを表示してあります。

(TIME.com. 6 June 2013 より, 一部改変)

さて、もう少し深く考えるために、次の文章を読んでみよう。

(和田敦彦, 1997, 『読むということ』より, 一部改変)

上記の読書論から、我々は、間接経験の一事例として考えた読書には、「意味の生成」といった極めて能動的な行為が行われていることを読み取ることができそうである。こうなると、先ほどみた「間接経験は直接経験に及ばない」という考えは安易にすぎるということになるであろう。

さて、これまでは間接経験の例として読書を考えてきたが、もう一方の直接経験の側から経験を考えてみよう。

阪神・淡路大震災を神戸で経験した人がある。彼女は、まさにその日、その場所にいたので、震災をもっとも直接的に経験したといえる。被災した彼女は、地

震発生直後、三層に分かれていた空の様子に見とれていたという。一番下が真っ赤に燃える商店街の炎、その上が黒煙、そしてその上には果てしなく広がる雲一つない青空。そして、その青空には、何機ものヘリコプター。まるで一枚の絵画を見ているようだったと言っていた。これは文字通り、とてつもない直接経験であるが、これをもって彼女は「経験豊か」であるといえるであろうか。

地震から5日間、彼女は目の前の必要に追われていたが、その後、積極的にボランティア活動に参加したそうだ。その5日間は彼女にとって必要な時間だったに違いない。それは、直接的ではあるが受動的な被災経験を、彼女自身の中でもう一度「読み直し」、能動的に「意味を生成」するための時間だったのだ。この直接経験は、さきほど見た読書という経験と、大いに重なっているように思える。

以上のように考えると、経験は直接経験と間接経験に二分され前者が後者に勝る、と考えるには問題点が多く、直接か間接かとは異なる新たな視点で、経験はとらえなおさなければならないだろう。

語注

- ・cognitive science：認知科学
- ・immersive：没入的な
- ・decode：(ことばの意味を機械的に)変換する
- ・instrumental：手段的

問1 英文箇所の筆者は二つの読み方を提示し、一方を推奨しているが、推奨する読み方にはどのような教育的効果があると筆者は述べているか。二つの読み方を対比的に説明しつつ、100字以内でまとめなさい。(配点60点)

問2 下線部にある「新たな視点」を導入することで、それまでの経験の理解がどのように変わると期待できるか。具体的な事例をあげてあなたの考えを800字以内で述べなさい。(配点140点)